

バルーン閉塞下NBCA・リピオドール塞栓術： 3症例の胃潰瘍出血のTAEへの応用

胃潰瘍出血のTAEは、出血動脈に対し、isolation techniqueを達成し、出血点への順行性・逆行性両方の血流を遮断することが原則である。しかしながら出血動脈は脆く、出血点を越えてマイクロカテーテルを留置することは難易度が高く、順行性血流の遮断のみに終わることがしばしばある。

近年、NBCAのTAE使用は保険収載されたので当院では積極的に臨床使用している。バルーン閉塞下の注入によりNBCA・リピオドールの逆流を防止できるので、カテーテルの血管付着を生じにくい。また、出血点を越えるようなNBCA・リピオドールの圧入が可能である。

今回は3例の胃潰瘍の出血動脈に対し、一度のバルーン閉塞下NBCA・リピオドール注入により出血点に対し、順行性・逆行性の血流遮断を同時に達成したので画像・動画を供覧する。

水戸協同病院・放射線科 入江敏之
2023.11.18